

考え方をさせようとしたのが最初の罪です。「神様はあなたがたが神様のようになることを望んでいません。この果物を食べると、神様はあなたがたが神様のようになることを知っているのです」と、悪魔は論理を用いて自分の考え方にエバを誘いました。悪魔は結局エバの思いの中にウソを植えました。今日もこの戦いがあります。私たちは正しく考える必要があります。神様は私を愛してくださっています。神様が私を愛していると確信できないならば、そして完全に赦されていると確信できないならば、神様に仕えることは大変です。超自然的なことを行うのはほとんど不可能になります。ですから、まずあなたが神様との正しい関係を持つことから始まります。最初に私たちは新生しなければなりません。2番目はこの思いを新しくしていかなければなりません。ガラテヤ4章1節から3節「ところが、相続人というものは、全財産の持ち主なのに、子どものうちは、奴隷と少しも変わらず、父の定めた日まで、後見人や管理者の下にあります。私たちもそれと同じで、まだ小さかった時には、この世の幼稚な教えの下に奴隷となっていました」

アブラハムにイサクが生まれました。イサクが2、3歳のとき、イサクはまだ他の奴隷の2、3歳の子供と行動があまり変わりませんでした。アブラハムの家に来て、イサクと奴隷の子と一緒に遊んでいるのを見ると、どちらか分からないように同じく振る舞っていました。イサクはまだ自分が何者か知らないからです。だんだんイサクが歳をとって16歳くらいになると自分が何者か分かってきます。洋服の着かたも違い、アブラハムと一緒に食卓につき、奴隷と一緒に仕えずお父さんと一緒に食卓につくので、違いが分かってきました。多くのクリスチャンがまだ子供のときは、世の中の人とあまり行動が変わりません。世の中の人心配すると、その人も心配する。世の中の人喧嘩すると、こちらも喧嘩する。あいつが赦さないから、私も赦さない。あいつに仕返ししてやろう、と世の中と全く変わらない振る舞いをします。しかし、パウロは世の中と行動が全く違いました。使徒の働きを見ると、ヤコブやヨハネも違う行動をしていました。成長したからです。私たちもクリスチャンとして成長すれば、世の中の人生き方と私たちの生き方とは変わってくるはずですが、成長するとは考え方が変わるということです。

なぜ癒しを信じるか？

大切なことなので何度もお伝えします。”癒しは神様のアイデアです”。人間が最初に持ち出したことではなく、癒しというテーマは最初に神様が持ち出しました。創世記20章17節ではアブラハムが神様に祈って、アビメレクと奥さんたちを癒しました。4000年前に神様は癒しを始めておられるのです。出エジプト記15章24節では民がモーセにつぶやいていますが、神様が25節で一本の木を水の中に投げ入れなさいと言われました。それから神様は26節で『そして、仰せられた。』
「もし、あなたがあなたの神、主の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行ない、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは主、あなたをいやす者である」と言われました。ここで”エホバ・

ラファ”という主の御名があります。神様の御名の一つです。旧約聖書の中には主の御名がいくつも出てきます。神様が自分でこれが私の名前ですと言われているのです。出エジプト記4章1節でモーセは「ですが、彼らは私を信ぜず、また私の声に耳を傾けないでしょう。『主はあなたに現われなかった。』と言うでしょうから」と言いました。その時、神様は何をしましたか？その時、神様はモーセに奇跡を与えました。4節で杖を投げると蛇になりました。モーセがふところに手を入れるとらい病になりました。それをまたふところに入れると今度は癒されました。イエス様を思い出してください。もし私を信じなくても、私のわざを信じなさいと言いました。

イエス様が弟子たちを遣わしたとき、悪霊を追い出し、病人を癒しなさいと言われたのはイエス様でした。聖書を読むかぎり、弟子たちからイエス様に「癒す力をください」と求めませんでした。イエス様のアイデアです。イエス様が行ってしなさいと言われました。私たちからお願いしたのではありません。ですから癒してくださいとお願いする必要はありません。お願いするかしないかの問題ではありません。それをあなたが信じるかどうかです。一番良い祈りは「どうか神様、私の目を開いてください。私がキリストにあって受けているものを本当に見ることができるよう」に祈ることで。また、イエス様がペテロのために祈ったように「神様、どうか私の信仰がなくならないようにしてください。私が伝道に出ていくとき、私が福音を伝えに行くとき、病人を癒すとき、悪霊を追い出すとき、私の信仰がなくならないようにしてください」。これが本当に良い祈りです。戦いは、神様に何かをしてもらうかどうかではなく、戦いは私たちの信仰なのです。

信仰の戦い

最後にパウロもその戦いがどこにあるかを知っていました。1テモテ6章12節では「信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました」とありますが、この「永遠のいのちを獲得しなさい」の”獲得”は”カタランバーノ”というギリシャ語で、”しっかりと握り締める、自分のものとする”という意味です。子供のように聖霊を受けるときもありますが、この場合はこちらから”獲得”するという意味です。永遠のいのちを獲得するということは、いつまでも生きるという意味の永遠のいのちだけではありません。それはむしろ神のいのちを獲得していきなさい、という意味です。キリストがこの地上で持っておられた、豊かないのちを獲得していきなさいということです。いのちとは、”神のいのち”のギリシャ語”ゾーエー”という意味です。11テモテ4章7節「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました」とありますが、これが私たちの戦いです。悪魔との戦いはあまり気にしていません。悪魔のことを心配することはやめてください。イエス様について考えてください。戦いは信仰の領域です。ですから心をいつもみことばで満たしてください。神様といつも時間を過ごすということです。この世に打ち勝つものは私たちの信仰です。霊的なことでもあり、思いの領域のことでもあります。私たちの考え方を変えていきましょう！